

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	・考える力 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 ・美しい心 自分をみがき、他人を尊重できる人 ・健康 素直な心を持ち、心身共に健康な人
学校経営方針 (グランドデザイン)	開校50年 令和4年度 綾瀬市立綾北中学校 グランドデザイン かながわ教育ビジョン 心ふれあう しなやかな 人づくり 綾北 綾瀬市の基本目標 人を思いやり、社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 学習指導要領 生きる力の育成 「主体的・対話的で深い学び」 社会に開かれた教育課程 カリキュラムマネジメントの確立 育成を目指す資質・能力 知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性等 生徒の実態 ・素直で明るく、元気なあいさつができる ・自己肯定感が低く、自主的活動が苦手 保護者の願い ・上級学校進学のための確かな学力の向上 ・安全で充実した学校生活 目指す学校像 活気があり、地域から信頼される学校 学校教育目標 考える力・美しい心・健康 【考える力】 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 【美しい心】 自分をみがき、他人を尊重できる人 【健康】 素直な心を持ち、心身共に健康な人 指導の重点 確かな学力の育成 学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ◎共に学び共に育つ授業の実践 ○校内研究の活性化 ○基礎・基本の定着 ◎家庭学習の奨励 授業に意欲的に取り組んでいる生徒が8.5% 校内研究 「持続可能な社会に向けた価値観を持った生徒の育成」をSDGｓの観点から指導の改善を図る 教師が確かな学力向上のために授業で工夫していると思う生徒が80% 目指す教員の姿勢 ○「何を学ぶか」がわかる授業づくりに努め、学び方を身に付けさせる教師 ○生徒に、愛情と厳しさを持って公平に接し、共感的態度で指導に当たる教師 ○組織の一員として協働し、主体的に学校運営に関わろうとする教師 ○服務規律を守り、地域の期待に応える教師 心豊かな生徒の育成 一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ◎互いの個性を尊重し、他者と協働する力の育成 ○考え、議論する道徳授業の実践 ○元気でさわやかなあいさつの励行 OSC、SSWや外部機関との積極的な連携 楽しく登校できている生徒が8.5% 健やかな心身の育成 健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ◎基本的生活習慣の定着 ○学級活動、生徒会活動の活性化 ○体育祭、合唱祭の活性化 ○安全で清潔な環境の整備 学校行事や部活動に積極的に参加している生徒が8.5% ともに育てる学校づくり 学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる ◎保護者との信頼関係の深化 ○学年、学校、保健等たよりの発行 ○PTA活動や地域人材の活用活性化 ○小学校との交流と連携 学校の情報がわかりやすく伝えられているという保護者が8.5% 授業の共通理解事項（教員の心得） 1 始業チャイム前に教室にいます。 2 授業の始まりは、生徒と共に起立して「お願いします」のあいさつをします。 3 本時の学習内容を明示します。 4 本時の振り返りを行います。 5 時間内に生徒の表れを褒めます。 共育 保護者とともに— PTA 小学校とともに— 綾瀬市型小中一貫教育 地域とともに— コミュニティスクール かながわ学びづくり推進地域研究
今年度の重点目標	・学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ・一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ・健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ・学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「考える力」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	学習意欲については、生徒・保護者ともに1学年に比べ、2・3学年で肯定的な評価が多くなっています。今後も「学び方を身に付けた生徒」を育成するために、生きて働く「知識・技能」の習得と未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成や、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」等の涵養の3つの柱を、相互に関連を図りながら身に付けさせていくとともに、学び合う学習活動や家庭学習等を充実させ、あらゆる教育活動を通して育成を図るよう努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や部活動に積極的に参加している。	新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて形を変えた中での学校行事の実施となりましたが、アンケートでは生徒の約9割が意欲的に取り組んでいるという結果でした。保護者の方の参観も人数を制限しての実施となりましたが、生徒の様子やたより等から生徒の取り組みが伝わっているように思われます。今後も生徒が主体となり行事を作り上げていく形式を大切にし、その過程や結果を達成感に繋げていくことで活動を充実させていくことを目指します。
3 児童・生徒指導	学校は、「美しい心」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒のアンケート結果から、多くの生徒は、友人と良好な関係をつくる努力をしていることがわかります。保護者のアンケート結果からも、生徒の友人関係を肯定的に捉えていることが伺えます。学習指導、生活指導をはじめ学校生活のあらゆる場面を通じ、双方向のコミュニケーションを大切にして、より良い関係づくりに努めます。また、教職員に対しては道徳の研修を充実させるとともに、道徳の授業の中で互いを認めあったり生徒一人ひとりを勇気づける言葉かけをしたりして、心豊かな活力のある生徒の育成に努めていきます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	アンケート結果からは、約9割の生徒が「楽しく登校できている」と回答をしています。「学校生活アンケート」など、多感な揺れ動く生徒の心理状況等を把握するために有効なツールを今後も活用して、不安や不満を抱える生徒の早期発見、早期解決に向けて努めていきます。また、生活相談はカウンセリングマインドを持って対話することで、生徒自身の課題解決を助ける良い機会となっていますので、今後も定期的の実施していきます。さらに学習や人間関係のつまずきの早期発見のために、担任以外にも気軽に相談できる学年の教育相談体制をより強化していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のために取り組んでいる。	アンケート結果では、教職員と保護者との回答結果に隔たりがありますが、いじめの早期発見・再発防止に向けての取り組みを保護者に十分に周知することで、理解を得られるよう努めます。いじめは、すべての生徒に関係する問題であり、安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、今後も生徒の小さな変化に気を配り、毎月行う「学校生活アンケート」や学校生活の様子から早期発見に努め、学年や学校全体での情報交換体制を充実し、いじめ防止等対策委員会を中心に早期解決に向けた組織的な対応に取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は、「健康(素直な心を持ち、心身ともに健康な人)」を育てる指導を積極的に行っている。	アンケート結果では、7割以上のご家庭・生徒から、生徒が「健康や体力に関心をもって生活している」との回答が得られました。しかし、生徒やご家庭からは、あまり関心をもっていないという回答もあり、教職員との隔たりもあります。今後も、日々のけがや体調不良、心の健康にも留意し、職員連携、保護者連携を大切にして生徒の心身の健康や安全の確保に努めていきます。また、定期健康診断の結果について各家庭と情報共有を図ることで、生徒の健康管理に努めます。さらに、食育や保健指導を通して、生徒自身が自分の心身の健康に関心を持ち、セルフコントロールできる力を育てていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後もPTA校外委員会と連携して下校指導をすることで、登下校時の問題点を把握することに努めます。さらに、学校運営協議会との連携も視野に入れ、地域の力を借りて校外における安全対策を検討していきます。保護者に対しては、地域に出没する不審者等を見かけた場合は、すぐに警察に通報するとともに学校にも連絡を入れるよう依頼をし、校内でのより迅速な対応に努めていきます。また、校舎施設設備の点検と安全管理体制の強化に努めます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	今後も、さまざまな教育的ニーズをもつ生徒に対して、個別の支援体制の充実を図るとともに、教職員間において情報発信・情報共有を図り、学校全体で支援教育の意識向上、体制の充実を目指して取り組んでいきます。保護者に対しても支援教育に関する学校の取り組みや情報を発信し、お互いの理解を深め協力していけるよう努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	校長のグランドデザインをもとに管理職や総括教諭、学年代表を中心として、企画会や学年会、教科会やグループ会議等を活性化し、PDCAのマネジメントサイクルを効果的に実施していくことで学校教育目標の達成を目指して努力していきます。

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるために力を入れて取り組んでいる。	本校では、グループワークやタブレット端末の活用を取り入れた、わかりやすい授業を展開し、生徒の学習意欲を高めるために、全教員で組織的に授業研究に取り組んでいます。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をするために、単元構想を軸とした授業の在り方や、ペアやグループでの意見交流活性化への工夫、ICTの活用、指導と評価の一体化などを研究する中で授業改善を推進していきます。また、教職員一人ひとりの資質向上と学校の組織力を向上させるためにも校内で行うOJTを大切にしていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	「学校教育目標」や「指導の重点」にあるように、生徒のよりよい成長を目指して教育活動を行っています。保護者へのアンケート結果からは「よく知っている」「知っている」を合わせた回答が約3割であり、十分に保護者へ伝わっていない現状もあります。学校教育目標を「学校だより」の題字のところに載せたり、昨年度より通知票の表紙に載せたりしていますが、今後もさらに広報活動などの取り組みを進めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている。	保護者へのアンケート結果からは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて約9割の回答を得ています。この背景としては、ホームアンドスクールやスクリレの効果が大きいと考えられます。なお、どちらにおいても、加入保護者数は1月現在で学校全体の8割ほどとなっており、最新の情報が多くの保護者に伝わりやすくなっています。また、学校だよりや学年通信などが保護者の手元まで届くように配付物用ファイルの活用をしたり、PTAと協力して体育祭や合唱祭の様子が保護者に伝えられるように広報誌を作成したりする取り組みを行った成果と考えます。さらには、学校だよりで学年通信の発行済み号数を掲載したり、懇談会や保護者会、面談等で学校の様子を伝えたりするなどの工夫も重ねています。また、今年度より発足した学校運営協議会について、開催日時や議題等を学校だよりやホームページにて通知しています。今後も、積極的に生徒の学校生活や授業中の様子を伝え、様々な場面で保護者と連携して取り組んでいきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・「学校の授業や家庭学習に意欲を持って取り組んでいますか」という回答に対して、肯定的な意見の割合が他の設問に比べやや低いことが協議された。これは以前からの本校の課題と捉えている。今後の取り組みとして、学び合う学習活動や家庭学習の充実を図り、改善を目指したい。 ・今年度から始まった市の事業である「学び舎」と連携した夏休みの学習会では、職員も参加する体制を整えた上で、多数の生徒が参加していた。来年度も継続できるとよい。 ・「美しい心」を育てる具体的な方策として、毎週水曜日に実施している朝の挨拶運動が取り上げられた。教員が率先して挨拶を行うことは、生徒との関係作りを図るうえで大切であることが確認された。また、今後に向けては、「保護者にも協力を呼びかけ、挨拶運動に加わって頂くことで、学校がより良い方向に向かうのではないか。」という意見も出た。また、「挨拶運動の成果を生徒にも聞いてみてはどうか。」という意見も出たため、生徒の声を聞きながら、改善点を模索したい。		